

飢餓対策ニュース

わたしから始める、世界が変わる

10月16日は
「世界食料デー」
ぜひ各地の大会へ



ウガンダ・カサレー小学校の子どもたちと

二人の主人に仕えるべからず

日本国際飢餓対策機構 理事 木村雄二(大分県 直川クリニック医師)

以前赴任していたネパールでの事。庭に蒔いたスウィートピーが三月の半ばから咲き始め、赤紫、ピンク、白、黄と沢山咲き、乾季で雨の降らない季節なのに良く育ちました。向かいに住むネパール人の大家さんは「こんな花は初めて」と喜び、その住人のニュージーランド人(チベット難民に木工技術を教えていた)もスウィートピーの花束に大喜び。また35年間ネパールの病院で奉仕した米国人看護師のジョイスも息子のティモティと彼のフィアンセと一緒に我が家のランチに来て、テーブルのスウィートピーにびっくり。当時ネパールでは路上牛がどこにでもいましたから何でも食べられてしまいます。ですから花屋を見かけることなどありませんでした。

真夏のある日、スウィートピーの鞘が目に入り、「これ食べてみようか、名前通り甘いかも」と、お米に入れて炊いてみました。味は?日本を思い出しながら食べましたので美味しかったです。「花を十分楽しんで、実を食べて、スウィートピーの国に行ったら死刑だね。」なんて言いながら、ふと花が実のどちらかにしないといけなかったかな?と、食後に迷いました。トゥマスタース(二人の

主人)という言葉が脳裏をよぎりました。

迷いといえば、最近流行りの飛行機、ローコストキャリアも迷うところです。格安航空券をゲットしたものの早朝便のため、まずは空港に行き着くために始発の電車に乗らねばならず、そのためにタクシーを飛ばすという結果、安くない運賃になってしまい、本当にしまった、しまったということもありました。

さてあなたの手は何を掴もうとしている手ですか? お金ですか、神の言葉ですか? さらに掴んだ手を差し伸べるのは自分の懐ですか、それとも飢餓と貧困と闘う友へですか? 何も掴んでいない! それではその手を合わせて祈ってください。そのあなたの勇氣に対して神様が拍手をしてくださるのでは? まだ大金を握っているあなた、「悪者の家には、不正の財宝と、のろわれた枳目不足の枳があるではないか。(ミカ書6章5節)」と聖書は2700年も前につぶやいておりますぞ。「あなたがたは、神と富とに仕えることはできない。」(ルカによる福音書16章13節)

2014 世界食料デー各地で開催

10月16日の「世界食料デー」に合わせて今年も各地で大会が開催されます。ぜひ大会にお越し下さるとともに「あなたの一食分募金」にご協力ください。ウェブに情報。

世界里親会 里子にクリスマスカードを送ろう

クリスマスまでに各地域へ届けるために11月14日金までに大阪事務所に到着するようにご協力ください。それ以降の分もお預かりしますが、里子に届くのが遅れる場合がありますので予めご了承ください。※「大阪事務所でカード受領」のお知らせが必要な場合は、その旨お書き添えください。

バングラデシュの手作りカード 協力企業キングダムビジネスから

バングラデシュのテゼの家は、貧困者のための共同体です。このカードはその働きを支援する目的で作成されており、誕生日用やクリスマスカードに最適です。



絵は、わらなど植物の表皮を素材に全9種類があります。1枚税込324円。色、デザインおまかせ8枚セットなら、税込2,200円で全国送料無料でお届けさせていただきます。お早めにお求めください。

【問合せ先】(株)キングダムビジネス
TEL: 06-6755-4877 FAX: 06-6755-4888
Web: キングダムビジネスで検索。

広報より

「飢餓対策ニュース」をご愛読くださり感謝いたします。今号より制作コストを引き下げた上で、全頁カラーを実現しました。今後もハンガーゼロ実現のために、紙面の充実を目指してまいりますので宜しくお願いいたします。

好評です! 国際協力カレンダー「地球家族」

2015年から完全オリジナル版になった「国際協力カレンダー」のお申し込みはもう済まされましたか? 支援地域の子どもの夢や希望が実現できるようにとの願いを込めて作成いたしました。販売収益の一部はJIFHに寄付されます。

価格: 1部税込1,000円。一度に10部以上のお求めでお得な割引があります。割引価格、送料は下記へお問い合わせください。お早めどうぞ。

【お求め先】

(株)キングダムビジネス TEL: 06-6755-4877



ウガンダ・カサレー小学校教室建設募金・受付中(4頁に記事)

1口5,000円／目標1,000口(9月現在358口179万円)

ハンガーゼロ サポーターを 大募集中!!

現在...

3702口

今すぐ▶▶▶ 各種支援の お申し込み ができます!!

●まず右の必要事項に記入して、点線の枠部分を切り取りハガキに貼って、下記の大阪事務所宛に郵送、又はこの頁をコピーして、ファクシミリで申し込みください。確認のための必要書類等を送らせていただきます。
お電話でも申し込みできます。各事務所までおかけ下さい。

- ☐ ハンガーゼロ・サポーターとして協力します。
毎月()口 (1口1,000円)
- ☐ チャイルド・サポーター(世界里親会)になりたいので説明書(申込書)を送ってください。
- ☐ 海外スタッフ・サポーターとして協力します。
毎月()口 (1口1,000円)
- ☐ JIFHサポーターとして協力します。
毎月()口 (1口500円)
- ☐ ウガンダ学校建設に()口協力します。
- ☐ 今回に限り()円協力します。
- ☐ 郵便自動引落し申込書を送って下さい。
- ☐ その他の銀行自動引落し申込書を送って下さい。

フリガナ
氏名: 男・女

〒
フリガナ
住所:

.....
(電話)

▼申込日: 年 月 日▼NL 291号

FAX・072-920-2155

■発行者 岩橋竜介

■発行所 一般財団法人 日本国際飢餓対策機構

ハンガーゼロ
で検索!

Webサイトアドレス <http://www.jifh.org/>
eメールアドレス general@jifh.org
フェイスブック <https://www.facebook.com/hungerzero>

■募金方法 ※各種方法で随時受付中、詳しくは電話やウェブサイトで

●郵便振替 00170-9-68590 / 日本国際飢餓対策機構

●他の金融機関からの自動振替 ●クレジット、デジタルコンビニ

今すぐ
募金が
できます!

銀行からの自動振替

クレジットカード決済

コンビニ店頭で現金振込

ファミリーマート
セブンイレブン
ローソン
ミニストップ
などから募金

JCBカードも使えるようになりました!

かざして募金

「かざして募金」はスマートフォンからご利用できます。募金は、ソフトバンクモバイル(株)経由となります。詳しくはウェブサイトをご覧ください。

毎月、飢餓対策ニュースを皆様にお届けするために、ひばり障害者作業所(八尾市)、生活愛関西地区のボランティアの皆様が送付作業の協力をして下さっています。

なぜ？ 飢餓になるの

シリーズ⑤ 「穀物価格と飢餓」

物の値段は通常、需要と供給の関係で決まります。需要（買いたい人）が多くて供給（売りたい人）が少なれば価格が上がり、逆の場合は価格が下がります。世界の穀物価格もそうなるはずですが、実際はそうはなっていないのが現状です。

世界の穀物生産量は2007年約21億トン、2008年22億4,000万トンと増えているのですが2007年から、とうもろこし、大豆、小麦などの穀物価格が上がり始め、2008年に入ると急上昇して史上最高の価格をつけました。このために全世界で穀物の価格が上がり、開発途上国では人々が穀物を買えなくなって、食料を求める暴動が各地で起こりました。その後、穀物価格は急速に下落しましたが2010年以降再び上昇し、2014年は2006年秋に比べて1.6～2.5倍の価格になっています。一方2013年は、過去最高の24億6千万トンの収穫がありました。

投機により変動する価格

なぜ生産量に関係なく穀物の価格が上がったり下がったりするのでしょうか。主な理由の一つに、穀物

が投機の対象になっていることが挙げられます。世界経済が低迷し、株や債権では儲からなくなった投資家が、干ばつや洪水で生産が減った穀物を買いこんで高く売り、お金を儲けようとしてしました。穀物は生産量がすべて人の食用になるわけ

ではなく、家畜の餌やバイオ燃料としても使われます。また収穫された穀物はまず生産した国での消費にあてられるので、国際市場に回っている量が少なく、価格が変動しやすいのです。

さらに、穀物の国際市場価格が急落しても、食料の取引を仲介する中間業者が利益を得るために価格を吊り上げたままにしておいたりします。

食事回数減で栄養失調にも

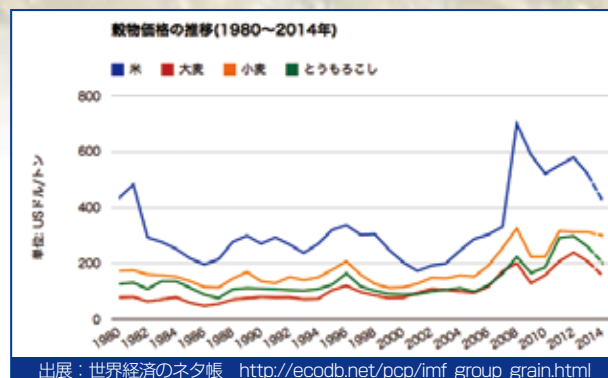
開発途上国の中には、主食の穀物を輸入に頼っている国が少なくありません。天候不順の影響を受けやすい農法なので、備蓄できるだけの収穫を得ることができないのです。収入の60～80%が食費になる貧しい家庭では、穀物の値段が上がれば1日の食事回数を減らしたり、栄養価が低く安い食料を

買ったりすることになり、栄養失調の危険性がさらに高まります。また、国連機関やNGOが食糧支援をしようとしても、穀物価格が高くなれば買える食料の量が限られ、支援も行き渡らなくなってきます。

世界中の人々が食べるのに十分な量の穀物が生産されているのに、さまざまな理由でそれを手に入れることができず飢餓に苦しむ人々が8億4,700万人。その穀物は豊かな人のお金儲けの材料になり、もともと貧しい人々がさらに苦しめられているのが現実です。

■□■□■□■□

JIFHIは、開発途上国で現地パートナー団体と緊急の食糧支援を行うとともに、物心両面での支援を続けています。栄養不足に陥っている子どもたちのためにはカンボジア、ケニア、南スーダン等で学校給食の支援を行っています。



当機構は、8月20日早朝大規模な土砂災害に見舞われた広島市安佐南区八木と安佐北区可部東において、直ちに被災者緊急支援を開始しました。支援を進めるにあたっては、広島市内で立ち上げられた、キリスト教会による「広島土砂災害支援室」に、当機構広島事務所（田村総主事以下）を主体に参加、支援室の事務局運営と現場でのボランティア活動のために食料や水の配布とスタッフ派遣を行いました。また、「広島土砂災害緊急募金」をスタートし、これまでに302万円の募金（9月12日現在）が寄せられました。皆さまの温かいご支援を心より感謝申し上げます。

八木地区

可部東地区



「広島土砂災害」緊急支援活動

地元の支援組織を応援

最大被害地の広島市安佐南区八木では、広島平和キリスト教会を前線基地として連日30人前後のボランティアが近隣の被災者宅で泥だしなどの清掃作業を続けました。被災者の板東和代さんは「私たち家族だけではどうすることも出来ないと思っていましたので、本当に助かりました」と話しておられました。

一方、同安佐北区可部東地区では、二次災害の危険があるために被災後1週間以上避難指示が解除されず、市の斡旋によるボランティアが入れない状況が続き、被

災家族や親戚だけで懸命に泥だし等が続けられていることを、同地区の北野牧師（可部グリーンヒルチャペル）を通じて知り、早速ボランティアを派遣しました。現場では「私たちには支援の手が全く伸ばされなかったから本当にありがたい」（高齢の男性）との声を聞くことができました。

被災者に寄り添って

当機構の吉田知基は「住宅地の被災状況は東日本大震災の時と共通している部分があり、床下の泥だしを躊躇^{ちゆうちゆう}されている方にも必要性（健康問題や住宅の耐久性低下）を説明して、ご理解の上で作業をさせていただきました。床下まで入るボランティアがなりましたが、今後も同支援室をい中、とても喜んでいただきました」と

報告。東北での経験を生かし被災者に寄り添う活動を進めることができました。

緊急支援活動の実施にあたっては、キリスト教会広島土砂災害支援室が、ボランティアが宿泊できる活動拠点（三滝グリーンチャペル・スマイル館）を無償で提供、ここがベースキャンプとなりました。また、当機構の協力企業パン・アキモトからパンの缶詰、キリンビバレッジ、中京医薬品からミネラルウォーターなどの提供があり、現場での必要に応えることができました。

広島土砂災害緊急支援活動は、今後も同支援室により継続（大工さんの派遣等）されます。当機構は9月末でボランティア派遣を終了しましたが、今後も同支援室を通じて被災者の復興を応援いたします。



住宅の床下に堆積した泥を除去するボランティア（安佐南区八木）

「広島土砂災害」募金に引き続きご協力をお願い致します。
郵便振替00170-9-68590 日本国際飢餓対策機構 記入欄に「広島土砂災害」と明記してください。ウェブサイトからは、クレジットカード等で募金して頂くことができます。

2014年 夏のワークキャンプ特集

UGANDA
CAMP
8.18-30



カサーレ小学校教室建設プロジェクトに参加

ナムトゥンバのカサーレ小学校では教室が2つしかなく、雨季には授業ができない状態でした。JIFHは教室建設の支援を始めています。キャンプではそのお手伝いをしました。引率者の吉田知基の報告です。

FH ウガンダのナムトゥンバオフィスは、首都カンパラから車で約4時間の所にあります。私たちはそこからカサーレへ行き、人々から温かい歓迎を受けました。まず教室の基礎部分となる外周を、深さ1mになるまで鍬やスコップでひたすら掘りました。作業をしていると、地域の子供たちがみかんを握り締めて私に近づき差し出しました。最初私は受

け取っていいものなのか戸惑いました。FH ウガンダのスタッフによると、「この地域の文化として、物を贈ること『私はあなたと仲良くなりたい、良い関係を築きたい』という気持ちを表します。ぜひ受け取ってあげてください」とのことでした。その子どもは貧しい中でも精一杯の気持ちをみかんに込めて持ってきてくれたのです。それから、毎日のように、大勢の子どもたちがみかんや卵、豆などを私たちに持ってきてくれました。暑い日差しの中、慣れない労働に手にマメをつくりながらのきつい作業でしたが、地域の大人や子どもたちと共に働くことができました。村長のピーターさん(84歳)は、

お別れパーティで次のように述べられました。「FH ウガンダのスタッフからプロジェクトの話を聞いた時、冗談だと思いました。しかし、本当に日本から人々がこの村のために来て、私たちと共に働いてくださいました。神様と日本の皆さんに心から感謝しています。」

カサーレ地域には核となる3人のリーダーがいて、彼らが中心となって回りの人々を自然に巻き込んでいます。3人とも指示だけを出すのではなく、言葉少なく良く働き、誰にでも仕える素晴らしいリーダーたちです。このような献身的な姿を子ども



子どもたちも手伝いしてくれました

もたちが見て成長すること、また学校建設作業を通して地域の人々が互いに助け合い、支え合うと共に、日本の皆さんが祈ってくださっていることを実感することで、人々が前進できのどと感じました。

UGANDA
CAMP参加
泊さゆみ

初めてのウガンダの地は私の出身地の奄美の原風景と重なり、帰ってきたという感覚を受けました。裸

足でボロボロの服を着ている子供たち、生活は厳しいでしょうが、澄んだ瞳、輝く笑顔で接してくれました。労働に不慣れな私たちを子どもたちも率先して手伝い、笑いの絶えないワーク、交流会でした。

また、地域のリーダーたちや父兄も積極的に参加され、自分たちで行動を起こそうという士気に明るい未来への展望を感じました。FHスタッフのシルバーさんから、子どもたちにとって私たち外国人が会いに来てくれたという事は、生きる希望につながるという話を聞いて、胸が熱くなりました。出来る事から少しずつ始め、支援の輪が広がっていくように願います。

この教室建設募金にぜひご協力下さい。最終頁からFAXでの申込みやウェブサイトからできます。



子どもたちと折り紙遊びをする泊さん

UGANDA
CAMP参加
藤崎直也

カサーレ小学校のあるナムトゥンバ地区は、ウガンダの中でもっとも貧しい地域にあります。この地域の家庭の90%は農業で生計を立てていますが、家族が十分に食べる食べ物がないのが現状です。カサーレ小学校では508名の生徒が学んでいますが、その内の228名は教室がなく外の木陰で勉強しています。もちろん雨が降れば勉強はできません。またこの地域に多く生息している砂ノミが子ども達の足の裏などに



食い付いて血を吸い、死に至らせることもあります。そのためにも新たな教室を建てる必要があります。

僕はこれらの事実をJIFHのニュースレターで知ったとき、自分にも何か出来ないかと思い、ワークキャンプに参加しました。今回の教室建設には、1番最初の鍬入れから一緒に関わる事が出来ました。建設には村のリーダーや学校の側にあるキリスト教会のメンバーが地域の人を巻き込んで



本当に良く働いておられました。誰よりも早く建設現場に来て作業し、最後まで残って作業をしておられたのが印象的でした。また、建設に用いられるレンガは生徒の保護者の各家庭が200個ずつ用意する予定でしたが、用意できない家庭もありました。しかしながら彼らに責任を追求するのではなく、むしろ一緒にレンガを準備しようとしている建設的な姿にもとても驚きました。日本では地域の行事や清掃の時には、責任感や義務感だけでお互いを縛り合うことがあります。ここでは働いていない人を責めることなく、まず自分が行動して周りを巻き込もうとする姿に大きな励ましを受けました。

2014年 夏のワークキャンプ特集

PHILIPPINES
CAMP
7.31-8.9

パートナー団体ハンズオブラブ・フィリピン (HOLPHI) の活動地、ミンドロ島にあるマンヤン族の村、シドに滞在させていただき、村の人々との交流や小学校校舎の給水塔建設作業の手伝いを通し、また首都マニラでは極めて厳しい貧困の現実を目の当たりにして、ワークキャンプ参加者一人一人が確かな気付きを与えられています。その報告をお読みください。



PHILIPPINES
CAMP参加
秋山記史香

マニラ空港に着いて宿泊するホテルに向かうとき、道路の汚さに驚きました。ゴミ袋がそのまま置かれていたり、壊れたビルがたくさんあったり……凄くショックを受けたし、もっとフィリピンの現状を知りたくなりました。都市部のストリートチルドレンに出会った時は、子どもたちをじっと見ていてられず、目を逸らしてしまいました。全裸で、お腹がふくらんで、でも手足はガリガリの姿。日本では考えられない子どもたちの様子や生活を目にしました。また、昼食でチキン

食べていた時、女の子がドアからじっと見ている姿を見て、胸がぎゅっと締め付けられる様に痛かったです。原住民マンヤンの村に行くのは本当に大変で正直もう嫌だと思っていましたが、私より小さい子が昔学校までこの道のりを毎日通っていたと知ったとき、自分が惨めに思いました。

貧困の地域だけではなく、とってもきれいなリゾート地にも行かせていただきました。同じ国なのにこうも違うのかと思い、私がこれから研究し勉強していく1つの課題になったと思います。現代にも将来にも大切な事を学べたワークキャンプとなりました。



制作中の工芸品を見せる秋山さん(左端)

PHILIPPINES
CAMP参加
井上 恵

フィリピンでの10日間は、私の人生に大きなインパクトを与えました。一番印象に残っているのは、マンヤンの村での出来事です。村は、マニラからものすごく揺れる船で1時間、その後ものすごく揺れるジープで1時間、そして森と川を徒歩で1時間半ほど行った所にありました。

その出来事とは、村の方たちが現金収入を得るために制作しているビーズクラフトや竹かごの制作体験をさせてもらった時のことです。私の先生になってくれた女性は21歳。彼女は、村の方たちにビーズクラフトを教える技術を身に着け、学校では道德教育（聖書を通じて人の尊厳やあるべき姿を学ぶ）をする先生になり、日曜礼拝では前に立って賛美や祈りをしていました。若くしてたくさんの才能を発揮している彼女のことを心からすごいと思い、そのことを彼女に伝えました。彼女は迷うことなくこう答えました。「すべて神

様が与えて下さったものです。」

思わず目頭があつくなりました。彼女は、自分の体と心と才能と、すべてが神様から与えられていることに素直に感謝し、素直に表現し、村のために働いている。では私はどうなのだろうか？日常生活の中でどれだけそのことを意識し、彼女のように生活しているだろうか？大きなチャレンジを受けた出来事でした。

この度キャンプに参加させていただいた神様、訪問地のすべての方々、また快く送り出してくれた主人に、心より感謝をします。本当に、今回のキャンプに参加して良かったです



出来ました！と喜ぶ井上さん（後列中央）



PHILIPPINES
CAMP参加
中村恒太郎

自分たちより暮らし向きが豊かでない人々への同情心や正義感から、このフィリピンワークキャンプへの参加を思い立ったことを、私は今、大変恥ずかしく思っています。なぜなら、物質的には裕福に見える私たちも、心の豊かさの面では彼らとは比べようもないほど、貧しい状態にあるように感じるからです。

ミンドロ島の山奥、シドの村に住む人々は、給水設備、医療、食料、衛生環境、教育、どれも日本に住む私たちにとっては不十分、不便に感じる水準かもしれ

れません。自然災害によって容易に飢餓状態に陥りうる環境です。しかし彼らは、厳しい生活でもそれを受け入れ、本当に素敵な笑顔をもって毎日を過ごしているのです。そういった彼らの姿が、神様からのあらゆる祝福を喜ぶことを教えてくれました。

私たちにできることはなんなのでしょうか。私はまず祈りたいと思います。それは、飢餓と貧困に苦しむ人々のための、そして、実際にこれらの問題と向き合い、働きをしている現地のスタッフのための祈りです。また、サポーターとなることを通して、フィリピンの地域社会の変革、持続可能な人材や社会基盤の開発に貢献していくこともできます。一人の日本人にできるのは、ほんの小さなことかもしれませんが。自分の手には負えない。誰かがなんとかするはずだ。そのような態度をとることもできるでしょう。ですが、聖書の「2匹の魚と5つのパンによる5000人の給食」（イエスの奇跡）にあるように、一人ひとりの些細な提供であっても、神様がそれを用いて人々のために豊かに役立ててくださると私は信じています。



中村さんは山から水を引くための測量を体験



YUMI音楽教室 東北支援チャリティーコンサート

2011年3月の東北大震災の後、すぐにチャリティーコンサートを行って被災者支援募金をJIFHに届けてくださった、YUMI音楽教室は、2014年7月にも40周年記念コンサートの入場料を東北大震災被災者支援のために捧げてくださっています。代表の渡邊由美さんにお話を伺いました。♪



♪ 40年間ありがとう！の思いを東北へ

Q YUMI音楽教室では東北大震災が起こってすぐにチャリティーコンサートをされたんですね。

渡邊 実は2011年3月ごろに、教室の「発表会」ではなく「よい音楽を楽しんでいただく会」という形でソロの演奏会を予定していたんです。そこにあの震災が起こったので、私たちに何かできることはないかと考えていました時、出演者の皆さんがチャリティーコンサートを、と言ってくださいまし

次になにかあった時はぜひ応援したいと思っていました。少しでもお役に立って嬉しかったです。

被災者を忘れないために

Q 今年の7月にも再び東北の方々のためにと、コンサートの入場チケット代金をすべてJIFHに届けてくださいました。

渡邊 YUMI音楽教室を始めて40年になりますので、ありがとうの気持ちを込めて40周年記念コンサートをさせていただきましたが、東北の被災者の方々を忘れないように、というメッセージも届けたいと願いました。最近は悲しい出来事が多くて3年前の震災のことはニュースにならなくなってきています。でも被災された方々にはまだまだ応援が必要と聞いています。それで支援を続けているJIFHに協力したいと思い、後援をお願いしました。



音楽を通して応援ができることが感謝と語る渡邊さん

Q コンサートの参加者から何かコメントはありましたか

渡邊 3年前もそうですが「JIFHって何ですか？」「ほんとに困っている人に届くの？」という問い合わせが多かったです。「大丈夫、必ず届きます。八尾市の支援物資を直接届けたのもJIFHよ」って答えているんです。

Q ありがとうございます。黄色い募金箱も300配らせていただきました。

渡邊 このコンサートをきっかけにJIFHの活動を応援したいという人が増えるといいですね。



リトミック教室に参加されている高齢者による実演

私は、今まで歩んできた音楽人生のなかで「音楽に救われた」「音楽を続けてきて良かった」と思うことが何度もありました。

その音楽を通して、苦しんでいる方々の支えに少しでもなれたのなら、これ以上の幸せはございません。